

日本植生史学会ニュースレター

No.35 April 30, 2015

第30回日本植生史学会大会のご案内（第1報）・第39回日本植生史学会談話会のご案内
第10期会長/評議員選挙のお知らせ・自然史学会連合監修『理科好きな子に育つ ふしぎのお話365』出版のお知らせ
学会ニュース

第30回日本植生史学会大会のご案内（第1報）

第30回日本植生史学会大会を下記の要領で開催します。※大会・巡検の申込み方法等の詳細は8月上旬頃にご案内する予定です。一般研究発表の申込み締切りは9月上旬頃になる見込みです。

◆ 日時

2015年11月6日（金）午後：幹事会

11月7日（土）午前：幹事会・評議員会、午後：公開シンポジウム・学会賞/論文賞関連行事・懇親会

11月8日（日）一般研究発表（口頭/ポスター）・総会

11月9日（月）巡検（第40回日本植生史学会談話会）

◆ 会場：北海道博物館 講堂ほか

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 (<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/>)

〈アクセス〉

バスをご利用の方：地下鉄新さっぽろ駅・JR新札幌駅からバスターミナル・のりば10（北レーン）JR北海道バス新22「開拓の村行き」に乗り、「北海道博物館」で下車。乗車時間は約15分。

JRご利用の方：JR森林公園駅の東口のりば、新札幌駅からの上記のバスが森林公園駅に寄ります。バス乗車時間は約5分。※JR森林公園駅から北海道博物館まで徒歩で20～25分。

大麻・江別方面から：ジェイ・アール北海道バス・夕鉄バス新札幌方面行きに乗り、「厚別東小学校前」で下車、バス停から徒歩15分。

駐車場：北海道博物館のまわりには百年記念塔前駐車場、北海道博物館駐車場、開拓の村駐車場の3つの駐車場があります。北海道博物館をご利用の際は、北海道博物館駐車場が最も近く便利です。お体の不自由な方、妊娠中の方などは身障者用駐車場をご利用ください（10台ほどの駐車スペースがあります）。

◆ 懇親会会場：ホテルエミシア札幌（JR新札幌駅改札から徒歩約3分、地下鉄新さっぽろ駅9番出入口より徒歩約1分）

◆ 宿泊：各自でお早目にご予約ください。大会会場や懇親会会場（新札幌駅）周辺には宿泊施設が少なく、JR札幌駅や地下鉄大通駅付近に多数あります。JR札幌駅からJR新札幌駅間は快速で10分弱、普通で15分程度です。

◆ 主催：日本植生史学会

◆ 大会実行委員：田口尚（委員長）・白杵勲（副委員長）・紀藤典夫（副委員長）・内田和典・大塚宜明・高瀬克範・高宮広土・椿坂恭代・三浦正人・水島未記・守屋豊人・江口誠一・星野安治

◆ シンポジウム

テーマ：『植生史が語る北海道の文化—縄文からアイヌへ—』

オーガナイザー：山田悟郎（札幌国際大学）

日程：11月7日（土）13：00～

趣旨：現在、北海道ではアイヌ民族の「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画が具体化しつつある。この動きの中で、北海道における縄文文化～続縄文文化～オホーツク文化～擦文文化～アイヌ文化の変遷は、北海道島内で独自に展開してきたもののみではないことを再認識する必要がある。ただし、南北の文化を一方向的に受け入れたのものでもない。必要なものを能動的に取捨選択しながら、自らの文化に取り入れ、発展してきたのである。人々の植物利用は食料資源獲得だけではなく、自然と共生しながら高度な技術を体得し、衣食住・生業・交易活動と共に、本州地域とやや異なる文化を育んできたのである。それは火山噴火、地殻変動、気候変動などの環境変化とも、大きく関わりながら、時には連続と受け継ぎ、時には断絶と変容を繰り返しながらダイナミックに展開してきた経緯がある。ここではアイヌの歴史・文化・精神世界に関する正しい理解と認識を深めるために、北海道の植生史研究の黎明期を振り返り、道内に特徴的な各種資料をもとに、これまでない視点からアプローチして議論を深めたいと考えている。

また、アイヌ文化伝承者の減少に伴い、現在は残されていない技術や伝統文化の検証と掘り起こしにも必要である。次世代に文化を継承するためには、植生史による実践的な調査・研究・復元が欠かせないことは言うまでもない。しかし、博物館や研究機関における専門家の世代交代などが加速する中で、調査・研究を後継する若手研究者の減少も、深刻な問題のひとつある。その結果、多くの関係機関では貴重な試料（資料）の保全・保存も危うい状況にあることが懸念されている。本シンポジウムではこのことについても議論したいと考えている。

- 基調講演 「植生史が語る北海道の文化」 山田悟郎（札幌国際大学）
特別講演「アイヌの植物利用について」 村木美幸（白老アイヌ民族博物館）
①フローテーション法の黎明期 椿坂恭代（Project seeds 考古植物研究会）
②北海道の漆製品について 小林幸雄（元北海道開拓記念館）
③北海道の木製品について 三浦正人（北海道埋蔵文化財センター）
④北海道の編組製品について 吉本忍（国立民族学博物館）
討論 オーガナイザー 山田悟郎

◆ 巡検（第40回日本植生史学会談話会）

テーマ：『北海道の植生と埋蔵文化財』

日程：2015年11月9日（月）：バス移動

9:00 JR 新札幌駅前集合

9:30 野幌森林公園「ふれあい交流館」（森林植生と生物の特徴）

10:30 北海道立埋蔵文化財センター（展示室・千歳市ママチ土製仮面（重文）・美々8遺跡アイヌ期の木製品（重文））

11:30 北海道開拓の村（旧北海道庁・石造建築・漁村群などの歴史的建造物群ほか）

昼食

14:00 恵庭市郷土資料館（カリンバ遺跡出土遺物（重文）漆器・柏木川4縄文編布など）

15:20 千歳市キウス周堤墓群

16:20 美々貝塚・植内貝塚

17:00 千歳空港で一部解散（バスはJR札幌駅まで戻る）

案内人：山田悟郎・三浦正人、**世話人：**田口尚・高瀬克範・守屋豊人

内容：時期的に多くの植物は枯落しているため、北海道に特徴的な針混交林植生および森林性生物の状況を野幌天然林のガイド施設で再確認する。北海道埋蔵文化センターでは調査報告した旧石器からアイヌ文化の出土遺物とともに、原産地ごとの黒曜石や道内各地のテフラ堆積と遺物包含層の剥ぎ取り標本を見学する。また、縄文時代の千歳市ママチ土製仮面（重文）、キウス4遺跡やキウス5遺跡の木製品、擦文～アイヌ文化期のユカンボシC15遺跡や美々8遺跡低湿地遺跡出土品（重文）など、道内に特徴的な木製品の製作技法や樹種選択などについて理解する。次に北海道開拓の村において、アイヌ文化期以後の北海道の発展に関わった建築物を見学する。午後からは恵庭市郷土資料館にて縄文時代のカリンバ遺跡出土の多種多量の漆器類（重文）、柏木川4遺跡出土の特殊な模様編みの編み物を見学し、赤色顔料と漆利用について学ぶ。次に縄文時代の巨大な集団墓地である国指定史跡千歳市キウス周堤墓群を見学し、縄文時代の土木技術について考える。縄文時代前期の千歳市美々貝塚を見学し、縄文海進時の石狩低地帯の縁辺の状況を学ぶ。千歳空港で解散とするが、新千歳空港内には、集落、貝塚、周堤墓、墳墓、落とし穴などをはじめ、縄文～アイヌ文化期の多数の遺跡が存在した。連泊する方はバスでJR札幌駅までお送りする。※施設の都合や天候・災害などで予定が変更される場合があります。

第 39 回日本植生史学会談話会のご案内

第 39 回日本植生史学会談話会を下記の要領で開催します。

- ◆ **講習会**：大型植物化石研究のための植物形態学実習
内容：葉・球果・果実・種子の化石を同定するためには、現生の植物の形態を観察して、その特徴を学んでおくことが必要です。実習では、現生植物を材料に、葉・球果・果実・種子の形態を観察します。これから植物化石を研究しようとしている方、地質学系の学科の学生で、植物化石研究のために植物形態学を学んでみたい方を対象とした内容です。
- ◆ **講師**：塚腰実（大阪市立自然史博物館）
- ◆ **日時**：2015 年 6 月 13 日（土）13：00～17：00、14 日（日）9：00～16：00
- ◆ **会場**：中央大学後楽園キャンパス理工学部 2 号館 3 階 2338 実験室
東京都文京区春日 1-13-27（中央大学後楽園キャンパス交通アクセス
<http://www.chuo-u.ac.jp/access/kourakuen/>
- ◆ **主催**：日本植生史学会
- ◆ **世話人**：西田治文（中央大学）・江口誠一（日本大学）・星野安治（奈良文化財研究所）
- ◆ **定員**：20 名
- ◆ **会費**：会員 500 円・非会員 1,000 円（当日会場にて徴収します。）
- ◆ **申込方法**：電子メールにて、件名を「第 39 回談話会参加希望」として次の事項を記載の上、danwa39@hisbot.jp宛へお申し込み下さい。申し込みの締め切りは 6 月 5 日（金）です。
①氏名 ②所属 ③連絡先（住所・電話番号・E-mail） ④会員/非会員 ⑤懇親会の参加/不参加
- ◆ **スケジュール（予定）**
 - 1 日目：6 月 13 日（土）
 - 13：00～14：00 基本事項の解説
 - 14：00～17：00 球果の形態
 - 17：30～ 懇親会（有志のみ、参加費別途）
 - 2 日目：6 月 14 日（日）
 - 9：00～12：00 果実・種子の形態
 - 12：00～13：00 昼食（会場付近に多くありますので、各自でお願いします。）
 - 13：00～15：00 葉の形態
 - 15：00～16：00 質疑応答

（2 日間のどこかの時間で、中央大学構内、隣接した公園で野外観察を行う予定）

第 10 期会長・評議員選挙のお知らせ

「日本植生史学会会則」及び「会長、評議員選挙規定」に基づき、下記の予定で第 10 期会長・評議員選挙を行ないます。正会員（一般会員及び学生会員）の方々は忘れずにご投票くださいますようお願いいたします。

選挙管理委員長：清永丈太

公示日

2015 年 05 月 18 日

投票締切日

2015 年 06 月 18 日（当日消印有効）

自然史学会連合監修『理科好きな子に育つ ふしぎのお話 365』出版のお知らせ

日本植生史学会が所属する連合体、自然史学会連合監修の書籍『理科好きな子に育つ ふしぎのお話 365』が誠文堂新光社から2015年2月に刊行されました。自然科学研究の第一線で活躍している研究者への取材に基づいて制作された子供向けの書籍です。定価は2,300円（税別）です。

学会ニュース

● 会費納入のお願い

2015年度の会費納入にご協力下さい。

日本植生史学会会費（2010年度より）一般会員：6,000円・学生会員：3,000円・団体会員：8,000円・賛助会員：一口20,000円とし一口以上とする。会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等があった方は、以下の日本植生史学会事務局へのご連絡下さい。

事務局：

● 連絡・問合せ 庶務幹事 吉田圭一郎 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷常盤台79-2横浜国立大学教育人間科学部

TEL：045-339-3425 庶務：hbmmain@hisbot.jp 会誌投稿：hbjournal@hisbot.jp

● NL編集、ホームページ・企業広告問合せ 広報・渉外幹事 西本 寛 広報・渉外：hbnews@hisbot.jp

● 入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局

Tel：03-5307-1175 Fax：03-5307-1196 Mail：hisbot@univcoop.or.jp

● 学会ホームページ <http://hisbot.jp/>